

剪定後のぶどうの枝を誘引しています

現在畑では剪定作業と並行して枝をワイヤーに縛る誘引作業を行っています。
風などで枝が動いて外れないよう、しっかり固定していきます。
また枝を曲げて縛った時に折ってしまわないように神経を使いながら作業していきます。

2月15日 洗馬ブラッククイーン圃場



（左）専用のテープとカッターを使用してワイヤーに誘引していきます。

（上）剪定と誘引が終わり、春に向けて準備万端のブラッククイーン。今年はどんな成長を見せてくれるか。ぶどうを見ていると胸が高まります。

垣根仕立ての剪定方法について紹介します



長梢剪定（ギュイヨ式）



短梢剪定（コルドン式）

前回ご紹介したぶどうの枝の違いに続き、今回は垣根仕立ての代表的な剪定方法を2種類ご紹介いたします。

1つ目（左）は幹（主枝）から出た枝を長く伸ばし、ワイヤーに平行に固定する長梢剪定。

2つ目（右）はワイヤーに固定されている主枝から出た枝を短く切り詰める短梢剪定です。

それぞれ、残した枝から発芽し新しい枝が伸びて実をつけます。生長点の違いなどから芽の出やすさや房の大きさ、また剪定作業の効率などに違いがあります。アルプスファームでは栽培しているぶどうの特性を見極め、品種に応じてこれらの剪定方法を使い分けています。

春の気配を徐々に感じられるようになってきました



風はまだ冷たいですが天気の良い日は柔らかな日差しが畑に降り注ぎます



白くなり始めたシャルドネの芽

暦の上では「立春」も過ぎ、近づきつつある春の気配に草木が蘇る、と言われる「雨水」になります。これから三寒四温を繰り返しながら、春に向けて冬期のぶどう管理は大詰めになります。いよいよ迎える春からの栽培シーズンへ向けて寒い季節の作業もラストスパートと言ったところですよ。ぶどうも我々人間も春が待ち遠しい今日この頃です。

